



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/06/10

あっさり黙示録 #63

鎧袖一触で吹き飛ばされる反キリスト

黙示録 19 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は本当に久しぶりに、**あっさり黙示録**の第63回目です。今日の個所は、地上再臨のキリストに挑んだ反キリスト軍の結末はどうなるのか。これを一緒に見て行きましょう。

ところで、ウクライナ軍の反転攻勢について、ウクライナ軍の総司令官ザルジニーが SNS で動画をアップしていて、その中で非常に印象深いことを語っています。

「我々のものを取り戻す時が遂に来た。他人（ひと）のものを取りに行くための戦争を、これから始めるのではない。我々の領土を不法占拠している者たちを追い出して、我々の元に取り戻すための戦いが遂に来たのだ。」

この反転攻勢、正直言って、並大抵のことじゃないと思いますよ。

そもそも戦争では、守る方が攻める方よりも楽だと言われているのです。

攻める方が守る方を上回るためには、少なくとも、守る方の軍事力の3倍が必要だと言われているんですね。

ウクライナが持っている戦車部隊は非常に少ないです。通常西側が編成する旅団の、大体 1/5 くらいしかないんじゃないですか。そんな圧倒的な物量の不足の中で、「自分たちのものを取り戻すために行くのだ」と言っているのです。

キリストの地上再臨とハルマゲドン戦争は、どんな意味があるのか。

ひと言で言うと、キリストがご自分のものを取り戻すための戦いです。

長い間人類歴史において、人類世界は、あるいはこの世界は、悪魔によって不法占拠されてきました。この世界の本当のオーナーはそれを造られた創造主です。

しかし、悪魔が人をたぶらかして罪を入れ、不法占拠していました。

特に人類歴史の最後、7年間の艱難時代の後半3年半は、悪魔の最高傑作である2人の人物が全世界を牛耳ったんですね。

1人は反キリスト。もう1人は反キリストを補佐する偽預言者。

この2人によって、世界は本当に塗炭の苦しみを受けました。

しかし、その苦しみの時代に遂にピリオドを打つために、イエス・キリストが地上再臨されたんですね。

黙示録 19 章 17 節 a

また私（ヨハネ）は、一人の御使いが太陽の中に立っているのを見た。

これは、一人の御使いが太陽を背景に立っているのを見た、ということです。

普通、太陽を肉眼で見ることはできません。真昼間の太陽を直視することはできませんね。そんなことしたら目が潰れますよね。
だけど、夕焼けならどうですか。私たちは夕日を見ることはできますよね。
夕闇で暗くなっていき、舞い上がる塵でくすんだ太陽なら見るすることができます。

艱難時代、世界は4段階で暗くなっていきます。これは既に説明したとおりです。
今日の箇所は地上再臨の当日なので、世界はずいぶん暗くなっています。
太陽は今私たちが見るような輝きを放っていません。くすんでいるんですね。
そのくすんだ太陽を背景に御使いが立っていて、恐ろしいことを口にします。

17b 彼は大声で叫び、中天（ちゅうてん）を飛んでいるすべての鳥たちに言った。

中天（天の真ん中・大空の真ん中）を飛んでいるすべての鳥たちに、とんでもない恐るべきことを言ったんです。「エルサレムの地上に散らばっている肉を食え。」
エルサレムの地上に散らばっている、おびただしいひき肉状態の肉って、いったい何の肉でしょう。

18 王たちの肉、千人隊長の肉、力ある者たちの肉、馬とそれに乗っている者たちの肉、すべての自由人と奴隷たち、また小さい者や大きい者たちの肉を食べよ。

キリストが地上再臨される時、反キリストの軍隊が対抗して挑みかかるのですが、どんなバトルが展開されるんでしょう…。書いてないんです。
なぜ書いてないのか。戦いにならなかったからです。

鎧袖一触（がいしゅう いっしょく）という言葉がありますね。
鎧袖は鎧の袖。一触は軽く触れること。
鎧の袖に軽一触で触れるだけで、敵は吹っ飛んでしまう。
剣でバンバンやり合う必要がない。ちょっとかすただけで相手は吹っ飛ぶ。

地上再臨したキリストの姿を見た反キリスト軍は、一触もなく、かすりもせず、ただ目の当たりにしただけでミンチになってしまったというのです。
黙示録には様々な恐ろしい情景が書かれていますが、ここは私にとってベスト3の恐ろしさです。

キリストの威光の前で、最高のハイテク兵器でフル装備の武装をしている者たちが、何の抵抗もすることができなかった。彼らは消し飛ばされてしまったんですね。
いったい、どのように倒されたんでしょうか。
艱難時代の最後、地上再臨の時に、キリストがなされる裁きの手段が書いてあります。

第二テサロニケ 2 章 8 節

その時（艱難時代の最後）になると、不法の者（反キリスト。獣と呼ばれている、数字で666に換算できる名前の人物）が現れますが、主イエスは彼（反キリスト）を御口の息をもって殺し、来臨の輝きをもって滅ぼされます。

2つの方法がありますね。息で殺し、輝きで滅ぼす。
息で殺す。これは神の力を表しています。

イザヤ書 11 章 4 節

口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。

これは再臨されたキリストについての預言で、悪を裁くキリストのことです。
息で殺すとはどういうことでしょうか。

例えば、ろうそくの炎を消すのにバケツの水は要りませんよね。
特別な道具は要りません。フツ（息を吹きかける）。これで十分です。
つまり、簡単に滅ぼしてしまうのです。

栄光の地上再臨のキリストの息を受けた時に吹き飛んでしまって、次の瞬間 ひき肉のような状態になり、エルサレム中にうず高く積み上がっている。
「鳥たちよ、その肉をついばんで食べろ」ということです。

黙示録 19 章 19 節

また私は、獣と地の王たちとその軍勢が集まって、馬に乗る方とその軍勢に戦いを挑むのを見た。

これは、このハルマゲドン戦争を別の観点から描写しています。
馬に乗る方とその軍勢は、キリストと彼に従う御使い、携挙された教会のメンバーたち。獣と地の王たちとその軍勢は、反キリストと7人の王たち、その軍勢。

20a **しかし、獣（反キリスト）は捕らえられた。**

新改訳 2017 では“しかし”と訳していますが、ここはギリシア語原文では“カイ”。“しかし”と訳すのはおかしいと思います。“そして”です。
戦いを挑んだ。そして、当たり前なことが起こった。反キリストは捕らえられた。
捕らえられたのは反キリストだけではありません。

20b **また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。**

彼らはなす術も無かった。艱難時代の後半3年半、この2人（反キリストと偽預言者）は、だれも逆らうことができない力を持っていました。
みんなが反キリストを神のように崇めて、震え上がっていたのです。
彼らを倒す・殺すことができる者はどこにもいないと、心底思っていたでしょう。
しかし、地上再臨のキリストが現れた時、彼らは全く抵抗できませんでした。

そして、結論はこうです。

20c **この両者（反キリストと偽預言者）は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。**

彼らは悪魔の最高傑作です。人類を苦しめた張本人たち。
この両者はどこに行くんですか。硫黄の燃える火の池（ゲヘナ）に投げ込まれた。
ゲヘナは罪を持った人間が最終的に行く究極の地獄です。
地上再臨の当日、そこに、たった2人の人間（反キリストと偽預言者）だけが投げ込まれるのです。悪魔ですら、ゲヘナに入るのは千年後なんですね。
2人の人間だけがゲヘナの中。

生きたままと書いてありますが、これはどういう意味でしょうか。
人は自分の罪のゆえに、死ぬと、体から抜け出た魂は苦しみの場所に行きます。
苦しみの場所はハデス。留置場のようなところでしょう。ゲヘナではありません。
そこに入るのは魂だけです。

ところが、生きたままとは肉体を持ったまま、ということなのです。
ゲヘナは魂だけが苦しむ場所ではなく、肉体と魂を持った、すなわち生きた状態のまま、永久に神の無い世界を苦しむ場所なんですね。
悪の権化として人類に不幸をまき散らし、多くの人たちを死に追いやったこの2人はゲヘナに投げ込まれるのです。

21 残りの者たちは、馬に乗っている方（地上再臨のキリスト）の口から出る剣（聖書のことば・キリストのことば）によって殺され、すべての鳥が彼らの肉を飽きるほど食べた。

キリストのことばは剣です。実際的な力があるんですね。
すべての鳥が彼らの肉を飽きるほど食べた。
この戦いの前半で生き残っている者たち、続く後続部隊も全滅する。
地上再臨のキリストの登場によって、地上から悪が完全に一掃されてしまうのです。

黙示録が書かれていた当時、クリスチャンたちは大迫害の中にありました。
ドミティアヌス皇帝（51-96/在位 81-96）の下で、ただ「キリストを救い主・創造主として信じる」という理由だけで、不当に扱われ、人間扱いされることなく、濡れ衣を着せられ、拷問され、見世物にされ、獣と戦わされ、十字架に釘づけられ、あるいは島流しになり、殺されていった時代です。
正義を信じるのが難しく、正義より悪の方が強いと思いたくなるような時代だったでしょう。

そんな時代のただ中で、ヨハネはこのビジョンを見せられました。
すなわち、どんなに悪が栄えているように見えても、最後に神の正義は実現することです。神の正義はキリストの地上再臨によって、この地上に具体的にもたらされることになるのです。

あっさり黙示録をお話ししながら私が本当に願っていることは、聞いてくださった皆さんが、悪魔側について行って最後ゲヘナに行くのではなく、キリストの側に立ち返っていただくことです。

キリストは今、悪を滅ぼすためにこの世界を睨みつけているのではありません。悪・罪のために自ら犠牲となって十字架に掛かってくださった、この救いを受け入れるための猶予期間を与えてくださっているのです。

神はあなたのことを愛しておられます。大事に思っています。

なので、本当のことを包み隠さず、黙示録を通して語っておられるのです。

黙示録の目的は怖がらせることではなく、偉大な神の前に悔い改めて、救い主を自分の主として受け入れさせることにあります。

ぜひ、キリストを信じて永遠のいのちを頂いてください。心からお勧めします。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017